「不安」と対峙する親子をどう支援するか

# 学校から保護者への働きかけ

調査報告で浮かび上がってきた高校生・保護者の意識の変容をすでに肌で感じている先生方も多いだろう。この時代の保護者に対して、様々な働きかけをしている2校の事例を紹介する。

case1

## 岐阜・県立郡上（ぐじょう）高校

## 親子コミュニケーションの問題に悩む保護者向け 高大連携教育セミナーを開催

>>School Data
普通科・総合学科・森林科学科・食品流通科／1948年創立
生徒数／810人（男子385人・女子425人）
進路状況（2008年度実績）／大学 52.9%・短大 6.6%・専門学校 25.0%・就職 13.2%・その他 2.2%
岐阜県郡上市八幡町小野970-1
TEL 0575-65-3178
URL http://www.gujo-h.ed.jp/

普通科、総合学科、森林科学科、食品流通科の4つの学科を設置する郡上高校。卒業生の半数以上が大学に進学するが、生徒の学力幅や進路は多彩だ。

「地域コミュニティの中で生徒が育っており、学校とPTAの結びつきも強い」というのは、進路指導部長の水谷勝也先生。例えば年に1回開かれるPTA支部集会では、各地域のPTA支部に学校側が出向いて説明会を行う。来校してもらうより参加率が高くなり、保護者も打ち解けて要望や質問などの発言がしやすくなるからだ。進路についての話を聞きたいという要望があれば、進路の担当者が出向いて分科会を開催するなど臨機応変に対応している。

こうした、学校と保護者の良好な関係のなかから実現したのが「PTA教育セミナー」。水谷先生が保護者向けに企画し、PTAの協力のもと実現した。

### ワークシートも取り入れながら心理学から親子関係にアプローチ

「三者面談などで『進路のことなど家庭でよく相談してください』といっていました。けれども中には『どういうふうに子どもと話せばいいんでしょう』とおっしゃる保護者もいて、それにうまくアドバイスすることができなかったのです」と水谷先生。また「昨年の『キャリアガイダンス』No.20で「高校生と保護者の進路に関する意識調査」特集を読み、全国データと自校の実態の違いはあったものの、保護者と生徒の間の問題に改めて気づかされたという。

そんな課題意識を、以前から交流のあった東海学院大学の職員に話したところ、高大連携の一環として

**図1 第2回セミナーのテーマと内容**

親が迷うとき、子どもが迷うとき
～心が通うメッセージ～

1日目／親が迷うとき、子どもはどうなるのか
“迷い”のメカニズムの理解
ワーク等を通して、マイナス評価をポジティブな言葉に置き換えてみることで、相手をプラス評価することの大切さを知る。

2日目／子どもの“迷い”の受け止め方
“最後はやはり親の出番?”
心理分析ワークやグループディスカッションを通して、親と子どものタイプの違いを知り、子どもとの関わり合い方を学ぶ。

3日目／中高生の我が子に効く親のメッセージ
“交流の場”から秘訣を!
グループで話し合い共感し合う。また、子どもの立場を演じて子どもの気持ちを知ったり、言葉だけではないコミュニケーションの方法を学ぶ。

親子双方の心理分析ワークを行った結果を読み解き、それぞれのタイプを理解（第2回、2日目）。ケーススタディをグループごとで話し合い、全体でシェアするなど、参加型の内容となっている。

進路指導部長
**水谷勝也先生**

人間関係学部心理学科の寺田道夫先生を招き、親子コミュニケーションをテーマに講義をしてもらえることになった。親が子どもの気持ちをくみ取り本音で話し合えるような関係をどのように構築していけばよいのか……演習等も取り入れながら3日間（平日の夜に開講）かけて理解を深めていく内容で、心理分析を通して親子関係を考えていくのが特徴だ。

参加者はワークシートに取り組むほか発言も求められるので、普通の講演会とは違いアットホームな話し合いの場が生まれる。保護者同士が悩みを共有したり、アドバイスし合えることも良い点だという。

## 希望者を広く受け入れより実践的で役立つセミナーに

第1回目が好評だったため、今年度、第2回目（図1）も開催。申し込み人数は昨年から倍増して54人になった。テーマは同じだが、初回にも参加した保護者のために少し内容を進化させた。

例えば第2回セミナーの2日目。親と子それぞれの心理分析ワークを行ったり、「9時すぎにいつも娘のところに男子から電話がかかってくる。どう声をかける？」というテーマで4人1組で話し合ったりした。これらの作業を通して、親と子ではタイプが異なることや、親が思ったとおりには子どもは言葉を受け止めていないことなどを理解していく。そして最後に、どのように子どもと関わっていくか、どうすれば保護者自身の心も健康でいられるかをアドバイス。第1回のアンケート結果もふまえて、保護者が聞きたいことにピンポイントで答えられるような内容にした。

なお、セミナーには、一部の教員も参加。また、中学生の保護者も参加できるよう市の教育委員会を通して近隣中学に広報をしてもらった。さらに、募集はしなかったものの口コミで、他高校の保護者の参加もあったという。水谷先生も「地域全体のためになるのなら」と広く受け入れる考えだ。

## 成果と課題

セミナー開催の結果、実際に親子関係に変化があったという声も聞こえ、「効果を実感している」という水谷先生。何より自身もセミナーに参加したことで、「生徒をほめて伸ばす」とはどういうことかが実感できたという。「これまでは、つい生徒のだめなところに目がいってしまっていましたが、最近はほめることを意識して生徒と接するようになりました。学習面でもいい効果が出るし、生徒も明るくなります」

課題は参加者をさらに増やすこと。参加してくれるのは、悩みの有無にかかわらず向上心や知識欲が強い人だ。実際に子どもとのコミュニケーションがうまくいっていないと思われる保護者に参加してもらうにはどうすればいいか、今後も工夫していきたいという。また、教員にとっても参考になる内容なので、若い先生を中心に参加してもらうことも課題のひとつである。

### 保護者の声

**■子どもへの関わりについて聞いてみたいこと**

●ときどき「言われなくてもわかっている。うるさく言われるとストレスがたまる」と言われてしまう。どこまで注意したらよいのかわからないときがある。
●子どもが話さないときは、どういう風に話していったら心を開いてくれるのか。
●頭ごなしに言って子どもを傷つけてしまったとき、どのようにフォローしていったらよいでしょうか。
●自分の進路について欲がない、見守るしかないのか。
●好きなことを職業にできれば幸せだと思うが、本人はたくさんのことに興味があり絞りきれない様子。どのように導いてやればよいのか。
●父親との相性の悪さはどうしたらいいのでしょう。

**■講義の感想やセミナーへの意見**

●参加型だったので興味深く聞けた。
●子どもと意見が合わなかったときは、タイプの違いのせいだったのかとわかりました。
●「子どもを追いつめないことが大事」……この一言が心にグッときました。
●マイナス評価をプラス評価に変えることの大切さがわかりました。
●今は特に悩んでいないけれど、悩むときがくると思います。でも講義を聴いて、少し子どもをあたたかく見守れる気がしました。
●寺田先生の講義を子どもたちにも聞かせたい。
●実践的なセミナーで、他の親御さんたちも同じ思いで関わっていることがわかりました。遠くから来たかいがありました。
●自分が言われていやなことも、親という立場を勘違いして子どもに押し付けていたと反省しました。
●子どものいいところを言葉に出して言ってみよう。家族は身近でありすぎて、かえって見えなくなっていることがあるのかもしれない。